【実施区域・面積】

茨城県、　1.6ha

【生態系タイプ】

里地里山、雑木林

【実施区域の状況】

コナラを中心とする林床にも光が当たる明るい雑木林であり、林床には絶滅危惧植物を含む多くの植物が生育している。シジミチョウなど雑木林特有のチョウの生息が確認されている。申請者であるNPOが保全を土地を目的等で取得し、生物多様性保全のために、高木の伐採、アズマネザサの刈り取り、落ち葉かきなどが、定期的に実施され、環境省のモニタリング1000の調査対象地でもある。大学の環境系サークルの活動拠点ともなっており、環境教育の場としても活用されている。将来も雑木林としての管理が行われ恒久的な保全が実施されると考えられる。

【目標】

広く一般市民を対象に、茨城県宍塚大池周辺地域において、人と自然との関わりの中で作り上げられた、多様な生き物を育む里山生態系と歴史や文化の保全と継承発展を図る事業を行い、地域を越えて、人と自然、人と人のより良い関係の創生に寄与することを目的とする。

【主な活動内容】

〇高木の伐採：年に1回程度、10本を目途に、コナラなど高木を、のこぎり、チェンソーを用いて伐採する。：

〇アズマネザサなどの除去：11月から2月に、林床を日隠する植物を刈払い機により、除去する。

〇落ち葉かき： 11月から2月に、熊手などを用いい、林床の落ち葉を除去する。

〇常緑樹の抜き取り：雑木林の状態を維持するため、アオキなどの実生の小さな常緑樹を、手により抜き取る。

【モニタリング計画】

植物（咲いている花および実のある植物）当該サイトに設置した観察路で　通年、毎月1回実施する

調査方法は、モニタリングサイト1000のマニュアルに基づいて実施する。すなわち、植物は、咲いている花、身を付けている植物の種名を記録。チョウ類は、観察路から成虫を見取で観察し、種名を記録する。

モニタリング1000の調査を、日本自然保護協会の業務委託により、申請団体である宍塚の自然と歴史の会が、調査員を組織し実施する。

【実施体制】

モニタリング1000の調査を、日本自然保護協会の業務委託により、申請団体である宍塚の自然と歴史の会が、調査員を組織し実施する。



【計画期間】

2025年９月～2030年３月